

濟州島のシングッ：《POSECAMSAN》におけるシンバンの語り —2011 年、城邑里の鄭公鐵シンバンのシングッより—

古谷野洋子[※]

韓国ではシャーマンの祭儀をクッ（굿）と呼ぶ。クッの中で最も大規模なクッはクングッ（큰굿）と呼ばれる。シングッ（신굿）はクッを執行するシンバン（심방）の成巫儀礼であり、大規模なクッなのでクングッでもある。濟州島のシンバンは生涯に3回シングッを行わなければならないとされている。シンバンは神に仕えて生活の糧を得ているので、巫業で稼いだものは神へ返さなければならないからである。これを“役礼”という。シングッを行うシンバンは本主（본주）と呼ばれる。本主は家に先輩のシンバンたちを招き2週間にわたりさまざまなクッを演じてもらう。つまり、シンバンたちにとってシングッはクッの研鑽と伝承の場でもある。

過去に行われたシングッ（クングッ）については、『濟州クングッ 1986 年新村里金允洙家のシングッ』（『제주큰굿 1986년 신촌리 김윤수 심방집의 신굿』）、『濟州島クングッ資料 1994 年東金寧文順實宅中タンクルグッ』（『제주도큰굿자료 1994년 동김년 문순실댁 중당클굿』）の報告がある。これらは金允洙・李貞子シンバン夫妻と文順實シンバン（徐順實シンバンのことである）のシングッの記録である¹。本稿では、前述の金允洙シンバン夫妻のシングッの報告書を『金允洙夫妻のシングッ報告書』、文（徐）順實シンバンの報告書を『文（徐）順實氏のシングッ報告書』と便宜上記す。

本稿で報告するシングッは、2011 年 10 月に濟州島城邑里民俗村で行われた鄭公鐵シンバンのシングッであるが、その撮影と記録を目的とした「再現記録行事」でもある。主催がKBS 濟州島放送総局（以下、KBS と記す）、主管が濟州伝統文化研究所協力機関、後援が濟州特別自治道であった。このシングッの全過程を拝見した筆者は、「濟州島のシングッ（成巫儀礼）- 約 30 年間におけるその変容 -」（2012a）・「調査報告：濟州島のシングッ（成巫儀礼）- 2011 年のシングッから -」（2012b）・「濟州島シングッ報告：チョガムジェにおけるシンバンの語り - 2011 年、城邑里の鄭公鐵シンバンのシングッより -」（2013）の報告を行った。

祭儀の調査において最も大切なことの一つは、何がどのように語られているかを知ることである。しかし、2011 年のシングッはビデオ撮影も禁止されていたため、拙稿（2012ab）では語りの内容までは報告できなかった。2011 年 12 月にその全容を記録した報告書（『제주큰굿』）が KBS によって刊行された。その報告書の内容は、シングッの全過程を収録したDVD と写真集、及びその概要を解説した『濟州クングッ報告書』（『제주큰굿보고서』）である。この KBS 製作

※神奈川大学日本常民文化研究所特別研究員

の報告書を入手した筆者は、DVDのシンバンの語りを日本語に訳し若干の考察を加えて紹介した（拙稿 2013）。これはクツの第1日目に行われる総合請神儀礼の《チョガムジェ》（초감제）についての報告であった。本稿は3日目に行われる《ボセカムサン》（보세감상）についての報告である。本稿では《ボセカムサン》の語りの全容について述べ、シンバンの話りに注目し若干の考察を加えるものである。

なお、拙稿（2013）で既に記したことだが本稿の理解を助ける上で次の事を記す。クツではポンプリ（巫俗の神々の来歴を語る神話）が語られるが、本稿ではこれらの語りは概要のみを記す。なぜならば、これらは前述のシングッの報告書や張籌根『韓国の民間信仰 資料編』、済州大学校耽羅文化研究所編集発行のポンプリシリーズに報告されているからである²。さらに、ポンプリで語られる内容は専門用語が多く筆者の手におえない部分が多いという理由もある。また、本稿を理解するうえで必要な用語やクツの行われた家の間取りなどはすでに拙稿（2012 b）で報告してあるので説明を省く。

* 本稿の表記について

本稿は済州方言も多少理解し、日本語の堪能な釜山出身の盧琬珍氏（新羅大学、筑波大学修士課程卒業）の助けをかりながらシンバンの語った内容を記したものである。本稿においてシンバンの語りの部分は字体を変えた。直訳でわかりにくい部分は意識に、あるいは言葉を補足した方がいいと判断した場合は（）内に補足したが、その作業は最小限にとどめ必要がある場合は注を付けた。済州島のクツは済州方言によって語られる。場面によってはシンバンの語りはほとんど理解できないといっても過言ではない。文中の—は意味がわからなかった部分、あるいは聞き取れなかった部分である。かなり長く聞き取れなかった部分、あるいは意味がわからなかった部分は（不明）とのみ記すか、（）の中に概要のみを記した。また、理解しやすいように語りには見出しを付け、語りの最中の簡単な状況説明を（）の中に入れた。

なお前述のKBS発行のクングッの記録ビデオの概要を解説した『済州クングッ報告書』には各儀礼についての簡単な解説があるので参照した。

1. はじめに

本稿のはじめとして、《ボセカムサン》の概要、《ボセカムサン》を演じる3人のシンバン、当日の《ボセカムサン》の始まるまでの祭事《クァンセウ》（관세우）について記す。

（1）《ボセカムサン》の概要

《ボセカムサン》はクツの最初に行われる総合請神儀礼である《チョガムジェ》（초감제）と《チョシンマジ》（초신맞이）の後に行われる。《チョガムジェ》では、天地開闢・祭日・祭場について語り、クツをする理由などを述べ、祭場を浄め、神霊の門を開き、礼を尽して神々や祖霊を招いた。翌日の《チョシンマジ》では残った神々を招き祭場に案内した。このように礼を尽くし、念には念を入れて神々を招き、神々に供物を勧めたのだが、その準備に問題があったという仮定で行われるのが《ボセカムサン》である。『済州クングッ報告書』によると「《ボセカムサ

ン》は神のおかげで儲けて、食べて、生きてきたことに対して恩返しをするクツであり、高価な布などを神に捧げる。この年に収穫した3種類の穀物といろいろな食べ物を供えたボダブダン（お膳）を用意して進められるのだが、本主の真心が足りないためにきちんと準備をすることができなかったと本主を叱ってその罪を問うクツである」という。

（2）《ボセカムサン》を演じる3人のシンバン

《ボセカムサン》を演じる3人のシンバンについて簡潔に紹介する。詳細は拙稿（2012a・2012b・2013）をみていただきたい。本主である鄭公鐵（정공철 チョンゴンチョル 男性 1960～2013）シンバンは済州大学の国文教育科在学中から演劇活動に携わっていたが、その後、人間文化財となった安仕仁シンバンからクツを学び35歳から巫業に従事してきた。チルモリ堂のヨンドングッ（国家指定重要無形文化財第71号）保存会に参加し、金允洙（김윤수 キムユンス 男性 国家指定重要無形文化財技能保有者）シンバンの教えを受けた。2011年に52歳（実際は51歳）でシングッを行い、その翌年に行われた城邑里のクングッにも参加したが、2013年5月に病気で亡くなった。

シングッの進行をとりしきるシンバンを首シンバン、あるいはクンシンバンと呼ぶ。今回のシングッの首シンバンは東金寧の徐順實（서순실 ソスンシル 女性 1961年生まれ）シンバンである。氏は済州無形文化財ヨンガムノリ技能保有者であった故李中春（이중춘 イジュンチュン 男性 1937～2011）シンバンとスヤン関係（修養関係）を結びクツを学んだ。1994年の文（徐）順實氏の中タンクルグッは李中春シンバンが首シンバンとなり行われたものである。徐氏は今までに4回のシングッを行い、現在は「クングッ保存会」の代表を務める。

《ボセカムサン》を演じる梁昌宝（양창보 ヤンチャンボ 男性 1934年生まれ）シンバンは徐順実シンバンや金允洙夫妻のシングッにも参加したベテランのシンバンである。今回のシングッを契機に父母を亡くした鄭公鐵シンバンの“養父”となり、自らのメンド（巫具）を鄭公鐵シンバンに譲った。前述したが、氏は1986年の金允洙夫妻のシングッの時にも《ボセカムサン》を担当している。

他にも「シングッ保存会」のメンバーのシンバンたちがシンバンやソミ（小巫 クツの手伝い役）として参加した³。

（3）《ボセカムサン》の始まるまで：神々の起床《クァンセウ》

《ボセカムサン》はシングッ3日目に行われる祭次であるが⁴、3日目の朝の祭次は神々の起床から身支度までを手伝う《クァンセウ》から始められる。なぜなら、神々は既に祭場にいらしているからである。この朝の祭次は神々がお帰りになる日まで行われる。午前7時20分、「深い夜が終わり、天地が明るくなってきました」と梁シンバンが語り始めると、ソミたちが銅鑼・太鼓・鉦を打ち鳴らし、《クァンセウ》が始まった。梁シンバンは朝と夕べと神々について語り、鈴を鳴らして次のように続けた。

目上の方も起きていらっしゃるようです。起きてふと煙草でも一服しようかなと、煙草が吸いたくなります。炭に火を点けて、1万8千（の神々の居場所）、そこにタバコの火を載せよう（燃えている香木の入った香炉を持って部屋をゆっくり廻り、各タンクルの前でお辞儀をする⁵⁾）。起きたら一をして、煙草を吸って布団をたたんで、小便をして、顔を洗って一します。空から降りるウナボンチョンス（銀河水）、又、一飲む水道水、顔を洗う水を入れて、1万8千の神の前にその水を捧げます（水の入った容器を持ち、手にした葉っぱで各タンクルに水をかける）。顔を洗ったのでタオルもさしあげましょう（両手に白いタオルを持って各タンクルに捧げるしぐさをする）。

男の人は御服を着て、靴下も穿いて、チョゴリを着て、マゴジャを羽織って、その上にトゥルマギを着て、チナントップを着て、頭にはハントンナニラ、頭を留めるものをしてサントをします。それで女の方たちはチャンベキ（下着）を着て、中に着るチマ、外に着るチマを着て、上にはチョゴリを着ます。

ハルモニは着替えてから又タバコを吸いたくなります。昔のタバコはナジュヨンサン、次はハンドンチョ、次は一、日本のタバコ、アメリカのタバコ、韓国のタバコ、いろいろなタバコを手にとって、煙草の火を一して、8千の神たちにタバコの火も差し上げよう（香炉を持って各タンクルを廻る）。

タバコを吸ってから、ヘジャンのためにお酒を少し⁶⁾、甘酒で飲みたい方は甘酒で召し上がってください。清酒で飲みたい方は清酒で召し上がってください（手に酒の入った容器を持って）、済州島で作っている有名な漢拏山⁷⁾、1万8千の神たちの前にヘジャンスルを捧げます（手にした葉っぱでお酒を各タンクルにかける）。ヘジャンの為のお酒も捧げました。下人たちは一を貰ってください。夕べ、各子孫たちにいい夢をくださり、また、城邑里のチョンジェ、コクジェ、キウジェ（祈雨祭）、村のボジェ⁸⁾、大きい門の外に一がたくさんたくさん一しますように。一を貰ってクァンセウを一してください。

またここに取材に来た人たち、また、クッを見に来た常連の年配の方たちも、みんな洗顔をして、顔におしろいを付けて、クルマ、クルマじゃなかったっけ、（ソミから「クリームでしょう」という声がする）クリームを塗って、口には赤いのあるじゃない（「リップステック」という声がする）、赤いの塗って、眉毛をかいて、みんなきれいにして、今はチマチョゴリまでは着なくても、洋装で正装して、みんなきれいにしてくてください。それでは朝食の時間になりました。みなさん、ご飯を食べに行ってください。ソミたち、常連の年配の方たち、早くみんなで朝食を食べてください。それでお掃除をして、神をお迎えしてください。

《クァンセウ》は約20分間、このような梁シンバンの語りで進められた。この祭次は、目覚めた神々を洗顔させ、身支度をさせ、タバコと二日酔いのための酒を用意するものである。クッではこのように神の世界も人間の世界と同じように考えられていて表現されるのである。さらに、シングッの場に集まった見学者（取材人や研究者など）についても語られるが、神の世界と

人間の世界、神話と現実が境目なく語られるのがクツの特徴であるといえる。この後、朝食をとってから《ボセカムサン》が始められた。

2. 《ボセカムサン》の語りの内容

《ボセカムサン》は午前8時50分から11時30分まで、約2時間40分にわたって行われた。『済州クングッ報告書』には、「《ボセカムサン》は<ジェップグチェマジク>（젯북제맞이굿）、<チュモクジェサン>（罪目罪狀 죄목죄상）、<トンジマウルグ>（돈지마을굿）などの祭次からなり、これらの祭次は演劇的な要素が多くボセカムサンノリといわれる⁹⁾」とある¹⁰⁾。しかし、始まり（はじめの語り）は他の祭次と同じように神々のご機嫌伺いから始まり、本主と祭場の紹介、クツをする理由などが述べられ、最後に再び神々が招かれる構造となっている。担当する梁シンバンは黒い帽子を被り上着を着用する。

（1）はじめの語り

梁シンバンはタンジュバン（堂主房）にお辞儀をしてからポダプサン（供物の載ったお膳）の前に座り、鈴を鳴らしてチャング（枝鼓）を叩きながら語り始める。

・神々のご機嫌伺い

神々をお招きしました。陰暦卯年の9月18日の卯の時お招きしました。1万8千の神々それぞれのタン（堂）にいらしてください。安否をお尋ねします。元気でいらっしゃいますか。

・本主と祭場の紹介

済州島朝天面北村里31の2番地に住んでいます。姓は鄭氏で子年（鼠年）です。神の子です¹¹⁾。長女は21歳、次女は18歳です。ここは住んでいた家ではなく、済州島の有名な民俗村です。この民俗村の茅葺の家を借りてお伺いをいたします。

・クツをする理由を述べる（本主の八字（パルチャ・運命のこと）が儼しいのでこのクツをする と述べる）

お金というのはその日はなくても廻り廻ってくるものです。天地の間にあって、すべての者には一があって、一だから五倫という昔の聖人のお言葉がここに 있습니다。天地の間、すべての命は真ん中にあります。人の命より大事なものがありますか。春夏秋冬の中で、春のサムサゲは一¹²⁾、夏のサムサゲはとても緑が豊かで、秋のサムサゲは落葉とか紅葉になる季節です。また、季節が過ぎて3月が戻ってくると葉っぱも出て花も咲いて、父の骨を借りて母の肉を借りてこの世に誕生します。30になると一、60は還暦で、70は昔の高麗の時の一で、80は一で、90は一です。

生きていても、寝ている時とか病の時、心配事がたくさんあって愚痴を言ったりして、そういうのを除いたら、たった30年も生きていけません。今、鄭公鐵の話を行います。この祈りは済州島の放送局やいろいろな人がやってきて、済州のクングッとして19日の間やっています。

す¹³。鄭公鐵の峻しい八字のせいでこのクツをするわけでなんです。

- ・本主の紹介（鄭氏の孤独な生活と飲酒癖、学生時代から演劇活動に携わっていたこと、シンバンとしての経歴、今回、梁氏夫妻を養父母としてシングッを行うようになるまでを語る）

アイゴー、その家には家族もいなくて、1人でいろんなところに行きながら、肝臓が腐るほど苦勞をして、いろいろな心配もしました。苦しかった日々、夜になるとお酒を1杯飲んで眠って、1杯のお酒が2杯になって、2杯が3杯になって飲み過ぎてしまいます。生まれたときにはちゃんと—で生まれたけれど、劇団が好きで演劇の俳優をして、済州の文化（ヨンドンクツ保存会）が設立されると、そこに事務長として入って事務を執りながら、シンバンがクツをするのを見て、こういうことは私にもできるんじゃないかと思い、すべてをおいてクツを学びました。それでいろんな人に見下されて、そういうふうに生きてきました。もう年は52歳を過ぎましたが、仏陀に弟子がいるように、養父母を決めて頼りにして生きていこうと、いきなり父と母の縁を結んで、—9月18日の日、家の中にタンジュをたてました¹⁴。私もシンバンになったのだね（タオルで顔を覆って泣きながら語る）。今回は済州島の—を記録して、鄭公鐵がチョシンヨンチル（神のくる道）を整えて、薬飯薬酒をいただきます¹⁵（以下、神々の名称などが続く）。

- ・首シンバンの紹介

姓は徐氏、丑年の体を受けた52歳、城邑の民俗村にチョシンヨンチル（神の道）を整えました。

- ・最後に再び神々を招く

鄭公鐵がこれからちゃんとしたシンバンになって、サムシワンにきちんと役柄を捧げることができるよう¹⁶。チョンボダプサン（千の供物の膳）を捧げて、チョガムジェでチョゴン門、イゴン門、—の門を開けました¹⁷。チョガムジェ、チョシンヨンマジ、シンチョンゲで神を招きました。チョサンゲで招いて—アンシワンはニョンヒヤンタンジュ（にいらっしやいましたの意味か？ 以下、不明）¹⁸。深い夜が明けて朝になって—をして、部屋をきれいにしました。神々を招いて、1万8千の様—、キメチョンジをして¹⁹、各堂にチョンゲン、チブレ、イナン、マンゲン、チョンジワン、チブワン、ソビョルワン、地王、イン王、孔子、老子（神々から聖人までを列挙する）まで、サムチョンソッコン（三千帝釈宮）に降りてください²⁰。

（2）＜ジェップグチェマジグッ＞

梁シンバンは次に＜ジェップグチェマジグッ＞を語る。この話はシンバンの祖巫神となった“ジェップギ3兄弟”の物語である。語り終わると再び神々を招く。

- ・“ジェップギ3兄弟”の物語

簡潔に内容のみ記す。この物語は済州島のシンバンの巫祖神話である。3兄弟の母は黄金山の

僧侶との間に、8日にボンミョンド、18日にシンミョンド、28日にサンミョンドを産んだ。成長した3兄弟は手のひらに指で文字を書いて学び、科挙の試験を受けて合格した。試験は受かったが、僧侶の子だということで反対に会い合格は取り消される。科挙に落ちて泣きながら家に帰るが母はいない。母の実家から大きな刀を借りて邪魔したものの首を切り、閉じ込められていた母を助け出す。そして、三兄弟は黄金山に登り父親に会い、父親の助言により最初のシンバンになった。

・再び、神々・先輩シンバン・本主の親族と養父母の先祖を招く

「明日は<プルトマジ>(불도맞이)、あさっては<チョイゴンマジ>(초이공맞이)を行い、神々を招待して、御馳走して、神の家も整えています」と述べ、再び神々、さらに済州島各地の本郷堂の神々を招く²¹。次に、首シンバンの徐氏の紹介をして、昔の先生(亡くなった先輩シンバン)たちに協力を乞い、本主である鄭氏の家族から五等親戚までを招き、みんなで心と力を合わせてクツをしていると述べる。

(3) <チュモクジェサン>(罪目罪状)

『1911年 報告書』によると、「<チュモクジェサン>は、本主、ソミたち、見に来た人たちを廻りながら、クツをちゃんと準備することかできなかったのは誰の罪かについて問答して、結局本主の罪だったということにしてその罪を解いていくことである。クツを準備するに際しているような罪目を誰が犯したのかを究明する祭次である」とある。主に梁シンバンと徐シンバンとのやりとりで進められる。

・門が開き神々がやってきたのだが、問題が起こったようだ。

1万8千の神々、門前様は来たり行ったり、各堂またマンソ堂に降りて来てください。(不明)。チョナンカムサンニム、チナンカムサンニム、イナンカムサンニム(梁シンバンは笹竹を2本持つ)、シゴン門、開いているかどうかわかりません、シゴン門、遊んでみよう(音楽が鳴り笹竹を持って礼をしながら各タンクルを回る)。シゴン門を見てみると、シゴン門を開けましょうと言っています。シゴン門を開けました(笹竹を持って外から迎えてくるしぐさをする。各タンクルの前で礼をして、チュンカムサン、チョナンカムサン、シワンカムサン、シネーカムサン、ボンドカムサンなどを招いた²²)。誰々は右側がどうなっていて、左側がどうなっていて、ヨンダンがどうなっていて、マンドンがどうなっているのかわかりません。(降りてきたチョナンカムサンがヨンダン・マンドンを廻ったところ、「私より位の下のものがある」といったので問題が起こったようだ)

・梁シンバンと徐シンバンの会話(ボンドチナンカムサンを投獄したが罪状がわからない²³。以下、梁シンバンと徐シンバンの会話で主に進められる。)

梁：これはどうすればよいだろう。あなたたちが決めなさい。

徐：それはちがうでしょ。これは荷物を背負った人が解決すべきですよ。

梁：君は太鼓を持っている人が叩きなさいということなのね。ウロンクンの監獄に入れたけれども²⁴、これに入ったら出る方法もわかるはずでしょ。

徐：それをすぐにちゃんと解決してください。

梁：イナancamサンはポンドチナancamサンと一緒に来て一緒に動いて、ヨンダン、マンダンを一緒に廻って座りました。(途中不明)。アイゴー、それでポンドチナancamサンは罪が多いので監獄に入れて…。(ポンドチナancamサンは監獄に入れたがその罪状がわからない。その罪状について徐シンバンと梁シンバンが話し合うが、二人の話は意味をなさない。)

徐：ポンドチナancamサンは何の理由もなく監獄に入ったわけよ。その理由を明らかにしなければいけないのよ。

梁：その罪が何なのかよくわからない。お酒を飲みながら、ただおとなしい人もいい人も、罪のある人も、それぞれ自分勝手に生きているよ。

徐：お酒に水をいれたような、そんなぼーっとしている世の中よ。でも自分が罪人になったら、何の罪を犯して監獄に入っているのかを知らなければならないでしょう。

梁：だから、自分の責任をちゃんととることができなくて。

徐：だから悔しいでしょうね。あつというまにそこに入れられたのよ。

梁：罪を問うときにもポンメがなければならないでしょう²⁵。カムサングンがなければ罪を問うことができないの。罪を問うならあの世に行って、見たこと、聞いたことがなければならない²⁶。我国で監獄に入ってそこから出てこようとしたら、ボソクキン(保釈金)が必要だ。日本語でもホシヤクキンというでしょ。それをたくさん積まなければ。

徐：だから我国が減じるのよ。一するといつもそれ。戦争は起きても花は咲きます²⁷。けれどもこれは誰も解決できないでしょう。サムチョンが解決して²⁸。

梁：あの世の神に真心を尽くします。また、本主から、インジョン、役価を貰います²⁹。何かしっかりしてなくて、適当に処理するようで、言葉、行動がはっきりしていない優柔不断の人、保釈金を貰おうとしています。

徐：保釈金、ワイロばかり取ろうとするからだめじゃないの。保釈金なんかもらうんじゃないの。

梁：(無視して歌う) ヨンダン、マンダンーをしに行きます。(音楽がなる) ニョニヤンタンジュ、サムシワン、メンジン国のハルマニム、ムンジョン、ポニャン(以上、神々の名前)³⁰、ヤンソセの村(ご飯と供物を各棚の上に置く)ひとつずつあげたい³¹。3年間監獄にいないのに1年で出てくることもあるし、1年がたった3日ででてくることもある。

・梁シンバンと徐シンバンの会話(本主である鄭公鐵氏の投獄)

梁：とても腹が立っているけれども、それをひとつずつ聞いてみよう³²。

徐：私たちが何を間違えたのかを聞いてみましょう。クッをしてみると7代前の先祖から降りてくるけど、私がこの世にいるのも先祖のおかげなのでお返しをしなければなりません。（途中不明）それだけではなくて、食べて、着て、役割をちゃんとしながら、役価を出してクッをちゃんとしなければならない。それができないということは大きな罪よ。（本主とともに他のシンバンやソミたちが集まってきて2人の会話を聞いている）それだけではなくて、クッをするときには3日前からお米を貰って、ちゃんと研いで、いい米と悪い米をよりわけて、それでいいのを先祖にさしあげなければならない。それは正しいことで、恩返しをするわけだけど、1万8千の神にすることができなくて（途中不明）。この鄭公鐵が間違えたのは間違えたのでしょうか（以下、本主である鄭氏がきちんとクッをしなかったことを言っている）

梁：鄭公鐵の罪はクッをするとしても真心こめてやっていなかった。

（本主である鄭公鐵氏は罪を犯したので監獄に入れようということになる）

・梁シンバンと徐シンバンの会話（伝統文化研究所の朴所長と文理事長の投獄³³）

徐：また、誰が原因かという伝統文化研究所所長。

梁：そうだ、そうだ。

徐：研究はやっているけど、クッにはやってこない。

梁：モンドキを持ってきて³⁴、朴所長と文博士を叩くから。

徐：「クッがある」といったら「だめだめ」というし、「忙しい」というし、それが間違いなんだよ。

梁：朴所長どこにいるんですか。

徐：ここにきてください。文博士も。

文：言うとおりにしなければいけないんだよね。

梁：ここにきてください。

朴：私が何の罪をおかした？

梁：帰るつもり？ 罪というのは、鄭氏がシンバンとしてクッをしなさいということではなくて、そうではないんだけど。

徐：この家は、本主も5人で、シンバンも5人で、仕事をする人も5人³⁵。KBS、文博士、朴所長、姜PD（プロデューサー）、徐順実、あっ、6人なんだ。

梁：頭のおかしい人、ペテン師。罪というのは、お酒を飲むことは大きい罪のひとつ、時間になって「来ました」も「行きます」も言わない（挨拶をしないの意味か）のは罪、まじめに仕事をしなければいけないのに（しないのも罪という意味か、以下のやりとり不明）。

文：ヨンダン、マンダンだけ一すればよかったのに。

梁：所長も文博士も本主なの。この本主が間違えたんでしょ。9月18日が…。

徐：その日はキョンジャイル（37番目の日）。

(以下、朴所長と文理事長のクツの日取りに問題があったという内容が語られ、チョンジュ(清酒)を飲ませて監獄に入れようということになる)

・梁シンバンと徐シンバンとシミたちの会話(チョワンハルマン、シルハルマンたちの投獄)

徐:(梁シンバンの話に3人の女性シンバンが異議をとなえるのを聞いて)女の人が3人だ。

梁:女の人が3人集まると皿が割れるという話がある(喧しいの意味)。

徐:なんでも女の人の口から出てくるんだ。我が国の大統領も王様も女の人が作るものなのよ。

梁:アイゴー、じゃ、チョワンハルマン(竈婆様)がエプロンして…。

徐:チョワンハルマンが朝早く起きて台所で器を洗って³⁶、髪の毛が落ちないように三角巾を掛けて、ご飯を作って、匙でお釜に残っているおこげをすくって…。

梁:監獄に入れるとご飯はもう食べられないよ。

徐:けれども、礼は礼でしょ。

梁:コッパン—をとりあえず準備しよう(決めようの意味か?)。コッパンハルマンは姓は徐氏で年は51才³⁷。コッパンハルマン兼クンシンバンをやっているんだけど、それがコッパンハルモニ、これはプルトマジに捧げて、これはシワンマジに使うもので、これはシワンマジのあれで、これはシンバンたちのご飯、シンバンたちが冷たいもの食べないようにあったため、(こういうやりくりをコッパンハルマンがやるという意味か)。

徐:コッパンハルマンが本主に仕事をさせる(以下、コッパンハルマンの仕事について少し語られる)。

梁:昔作った捧げものは真心のこもった捧げものだったけど。最近はお餅を作るにも機械でやっていて、お餅屋さんでも機械を使う。

徐:精米所、餅工場も。

梁:油の匂いがすごくしてる。

徐:(本主は真心こめて出しているんだけどという意味のことをいう)

梁:餅を作る材料をよく伸ばして、辺(形か?)をちゃんときれいに作る。(餅の形は)大きかったり、小さかったりしていて、濡れた蓋をして…。

徐:サムチョン、(済州島の)東と北に行くとシルトックは1つも食べないんですよ。餅はトルレットックで厚さはこれくらいなんです。クンブックの先祖と北村の先祖はシルトック自体がわからない。ナッカシリは—、きれいに作るとききれいな子供が産まれる。昔、餅を作る機械は足踏機械で、クンドクンネしたんだよね³⁸。(周りの人に同意を求め、周囲で笑いが起こる。以下、梁シンバンと徐シンバンによって昔の餅の作り方が語られる。)

徐:昔は一模様の形の餅を作って、練炭の上に釜を置いて、餅を作る型をその上におく。それでチョワンハルマン(竈婆様)がペッタンペッタンする。モチを蒸すには技術やタイミングが大事だから、昔のおばあさんは出来上がるまではトイレも行かないで作ったんだよ。そして、シルハルマン(餅婆様)はシルをちゃんとみなければいけないの。

梁：みないとバツバツバツバツバーとなっちゃうんだよ³⁹。

徐：トック（餅）を作ってみると福を受けるかどうかわかる。トルレットックをしてみるとモンサンを貰う⁴⁰。それを見してみる。シンバンが餅を見るとクッをやる家の事がわかるんだ。まず、第一に福を貰おうとするなら、先祖から福に恵まれていなければだめ。

梁：チョワン（竈王）にはできないことがない。餅もちゃんときれいに作らなければならないよ。

徐：餅がちゃんときれいにできないといくら食べてもー。

梁：コンバツというものなんだけれど、それでシルトックを掬って食べるとどうなるかわかる。シルトックをこっそり食べるときは、家の主人が来ると喉の奥に入れておいてあとからぐぁーと出して食べるの。

徐：そういうのもあるけれど、トックハルマンも作る時にわざと間違えて崩しておいて、それは先祖に差し上げられないから私たちが食べようといったり、昔、こっそりと食べようとして、のどに入れておいて、後でこっそり出して食べる。

徐：チョワンハルモニ、ピョンハルモニ、シルハルモニ、トックハルモニみんな監獄に入れました⁴¹。

・梁シンバンと徐シンバンの会話（肉・魚・酒の話題から朴所長を監獄に入れる）

梁：アイゴー、チュトクするけれど、チュトクが何かというと目をつぶった肉をーするか、目を開けた肉をーするの⁴²、朴所長、文博士にきいてみて。海の魚を船に乗って釣りに行くと、その魚は目をつぶっていますか、開けていますか？

文：ー。

徐：昔、私がサムチョンにクッを学んだとき、「スンシラー（徐順実氏のこと）、目が長いのは太刀魚、目が大きいのはウロック」と教えてもらった。金寧の前の海で釣ったプルボルラック、ヨンピョンにあるチルサンの海で獲れるチョギ、ソギッポの近海で釣れるオットミという名前の魚⁴³。

梁：ソルレギ（魚の名か？）

徐：？

梁：酒なんだけど、どのように作るかわかる。ヌルックを作って、壺に入れておくと、ぶわーっと吹いて、その上が清酒、真ん中がマッコリで下にあるのがホジュになる。

徐：昔、ご飯を食べられなかった嫁はお腹がすいて下に残っているカス（酒粕のことか）を食べて酔っぱらった。

梁：とにかく清酒。

徐：サムチョン、又、言わせてもらうね。私がシンバンの仕事をしていて、こんなに清酒だけでクッをするのは見たことがない。清酒を作ると油が浮くかどうか、今回わかった。

梁：そう。

徐：清酒を上げたんだけどみんな油がういているんだ。

梁：清酒、焼酎、マッコリ、濁酒。

徐：サムチョン、朴所長はすべて昔のやり方でやってくださいと言ったよ。これもあれもすべて昔のやり方でやってくださいって。お酒もクッも昔のとおりやったのにジンロ焼酎も買ってこない⁴⁴。城邑里の人間文化財のおばあさんがオメガスルを作っているの⁴⁵。真心こめてちゃんと作っていると思う。

梁：特別にそのお酒をもってきたの？

徐：特別に注文しました。

梁：よいもの？

徐：全部よいもの。

梁：お酒の話はこれくらいにして、監獄に入れよう⁴⁶。

朴：そんなことで監獄に入れられるの。

・梁シンバンと徐シンバンの会話（ソミを監獄に入れる）

梁：アイゴー、監獄にいれたから、これからどうしようか。

徐：シンソンミ（ソミのヨンミ氏のことか）⁴⁷。

梁：シンソンミを連れてこい。

徐：ヨンミヤ（ヨンミ氏が呼ばれてやってくる）。

梁：君はここに座りなさい。何が1番問題かというによく聞きなさい。どういう罪かという、明後日がクッとすると、「プクッ（太鼓）はなにがいいですか、チャング（鼓）は何がいいですか」と尋ねてこそポッソミ（ソミのことか）の資格がある。それでこそポッソミなんだ。

徐：（隣に座っているヨンミ氏に）最近携帯があって車があるけれども、昔は携帯も車もない。クンシンバンがポッソミに、「クングッがあるので、誰々シンバン、誰々シンバンを呼ばなければいけない」といったら、ポッソミが歩いて行って連れてこなければいけない。ポッソミが手伝うから、ポッソミは弁護士さんのような存在なのよ。シンバンが、「やあ、誰々の家にクッがあるんだけれども、その家には鍋がいくつあるのか調べてきなさい」という。ポッソミはそこに行って「クンシンバンが調べてきなさいというから来ました」といって、その家でちゃんと用意がされていなければ、「それじゃ足りないです」と伝えて用意をさせる。それで、クンシンバンのところへ行っとうこうですと伝えなければならいんだけど、この子はまだ幼くて「おばさん、どうしよう」と言っている。

梁：ポッソミは監獄に入れて、次はチョプシンバンにしよう⁴⁸。

・梁シンバンと徐シンバンの会話（チョプシンバンを監獄に入れる）

梁：このチョプシンバンというのは一が大きいけれども中身はない⁴⁹。からっぽなんだ。欲ばりでしょう。何が欲ばりかという、ほら餅をみなさい（徐シンバンが餅を食べている）自分ばかり食べながらしゃべっているでしょう。大きい餅はセギョントンクル（農神の吊り棚）

のでしょう。

徐：2回目のはかまわないでしょう⁵⁰。

梁：餅もくっつくときくなる。セギョントンクルに捧げる硬いのはセギョントンクルに。

徐：アイゴー、昔、クッをしに行くと、ソミたちが「セギョントンクルには捧げました」という。でも、セギョントンクルは空いているんだね。クッが終わったらみんなもっていっちゃう。それでトンクルが空いている。

梁：食べて、それを自分の家にもっていっちゃうんだね。また、チョブシンバンは酒も自分だけ飲む、ご飯も自分だけ食べる。たくさん食べてお腹がこんなにいっぱいになるとヨンダンに又横になって体のシラミをとったり、使いをしに行ったり、昔はぐーたらしていた。そのシンソミも罪がある⁵¹。監獄に入れよう。

・梁シンバンと徐シンバンの会話（太鼓の叩き方とクンシンバンについて）

梁：また、12の一の罪、その罪は何かというと、太鼓を叩きなさいというんだけれど、肩も上げないで、チョフッチョフッチョフと叩く⁵²。

徐：また、外で犬の鳴き声も聞こえるんだ。ケーンケーンケン、もともと金持ちの犬はケンケンじゃなくてクンクンケンと鳴く。

梁：うそだ。私も犬なんだ。

徐：この太鼓を叩くと空までひびかなければいけないでしょう。

梁：デーサムソサム（大きく3回、小さく3回）で叩きなさい。

徐：（太鼓を叩く真似）デーサムソサムで叩かなければいけないんだ。そうやって叩くと空の神が一して、地の神が一する。

梁：テヤンで叩くのは聞こえない。そういう叩き方よ。

徐：セを叩くときは。

梁：12の一だ。アイゴー、アイゴ、（歌うように）シンバンたちが上がってくる。クンシンバンは誰にしてもらおうかなー。このシンバンの中で一番年が下なのに親分⁵³。

徐：私もしょうがなくてクンシンバンになったわけなの。なりたくてなったわけじゃない。最初、私は文先生に「誰がクッをやるにしても、私はクングッを伝える人としてソミをします」といったんです。ところが、ある日クンシンバンになってくださいといわれて。それで私はつくづく考えた。もし、私の子供が鄭公鐵だったら、私まで捨ててしまうと、誰もこの人を拾ってくれる人がいないと。梁昌宝サムチョンが、「あなたがクンシンバンだから一しなさい。又、彼らはチョブシンバンとしてやるから⁵⁴」と。それで私がやらざるをえなくなった。私はクングッの保有者で、今まで37年間やってきたから、「ああ、だめだ、これは私がやらなければならないんだ」と。

梁：チョブシンバンは鬼神のいうとおりやるだけ。私はもう80でしょう。一するのはできない。

徐：私も苦しいよ、サムチョン。

梁：クングッの保有者やっいてどう。

徐：それは、白髪が…（苦勞してるという意味）。

梁：じゃ、シンバンは食べて遊ぶ。お酒は飲まないけれども、コーヒーでも一杯出して。一を口にくわえてシンゴンチェーに監獄に入れよう⁵⁵。

・梁シンバンと徐シンバンの会話（投獄が終わって、神々に酒を勧める）

徐：これで実にすっきりした。

梁：私は1人でいくらでもクッができる。ソミがいなくてもいいし、誰も太鼓を叩かなくても私1人でクッをするから昔、天地混淆ですか、チョナンペッポにしようか⁵⁶。じゃ、天地混淆でしょう（ヤンシンバンは一人で踊り始める）。

徐：もっと早く。

梁：日本の徳山のように（徳山シンバンの真似か、ゆっくり踊っている）⁵⁷。クモはクモの巣で遊ぶのが当たり前でしょう。クァンデも紐の上で遊ぶものでしょう⁵⁸。シンバンはヨンムル（打楽器）で遊ぶものなんだ、楽器で遊ぶんだよ、シンバンはヨンムルなしでやっていると転んでしまう。

徐：サムチョン、クッをするときは心で—すると頭も痛くならないし、酔うこともない。クラブとかにいったらキラキラするでしょう。それを見ると頭が痛くなる。

梁：私は耳が痛くてそこに入る事できないよ。ワンチョンワンチョンという音がして頭がくらくらする。でもソウルのコリアハウスに行ってクッをするんだけれども、外国の記者たちが、この楽器だけでクッをするので不思議に思ったのか、「クッはその楽器だけですか」というの。それで外国の人たちが私たちと一緒に踊った。済州島のヨンムルというのは世界に稀な楽器なんだ。

徐：私はね、楽器が空もならせて、シンバンも躍らせて、太鼓がクンクンすると心からすっきりする。それで自然に肩を動かすような力がある。

梁：アイゴ、アイゴ、アイゴー、—もできなくて、シンバンのクッもできなくて、ソミが叩くこともできなくてどうすればいいんだろう。（梁シンバンが「各タンクルに供物を捧げよう」というと、ソミたちが供物の載ったお膳を運んできて、各タンクルに供物を捧げる）

梁：ヨンダン、マンダン（歌うように）、余った盃を出して—、クングッの時は12の一を貰って、チュンタンクルを受けていた昔の先生たち。チョンジワン（天地王）は大きな盃です。

・シンカル占い（神刀占い、チュモクチュサンの結果を神に尋ねる）

梁：チョナンカムサンガンを呼んでください。チナンカムサンガンを呼びます。イナンカムサンガンも呼びます。呼んでください（梁シンバンがシンカル占いをする。鄭氏がやってきて隣に座ってインジョンを出す）。チュモクジェサンを解きました（ソミがコリドンパンを各タンクルに上げる⁵⁹）。成し遂げた役価を捧げよう（卓の上に置いてあった白い布を手取る）。

チョンボダブを貰ってカポヨンダンマンダン、チョンボダンもトラルロカンサム⁶⁰（大きく音楽が鳴る。梁シンバンは白い布を持ってお辞儀をするが、すぐに白い布を落とす。次にまたシンカル占いをしながら）―がよくできたということなんですか。少し心配はあるんだけど、ありがとうございます。みんなちゃんと真心を捧げたんですね。

みんなちゃんと真心を捧げたということになり、＜チュモクジェサン＞は終わる。

（４）＜トンジマウルグッ＞

『済州クングッ 報告書』の解説によると、＜トンジマウルグッ＞とは「シンバンは供物である木綿布を両手で計ってお膳に捧げようとして自ら両手首を縛るようにする。シンカル（神刀）を持った両腕に木綿布をぐるぐると巻きつける。いろいろな巻き方がある。神が本主の真心に満足していないから布が解けないということを見せた後に、インジョンを貰って布を解き、本主の真心に神たちが満足したことを見せる」とある。

・梁シンバンが木綿布を計って捧げる

梁：（木綿布を手にとって）１万８千の神の前で一人になって、１万８千の心（？）になってやらなければならない。ひとつ、ふたつ、布を切って捧げなさいと言っています。１目、２目、（と言いながらシンカルで布の長さを計る）、布が長いから切って捧げよう。１目、２目、中には４４目、３３目、１２目、３５０目、切って捧げよう（以下、布をくるくる回しながら、サムシワン、メンジン国ハルマニムなどに捧げようと続く）。

トルマギ、パジ、チョゴリ、チマチョゴリ⁶¹、この布でいろんな服を作ろう。昔の靴下（ボソン）の生地だね。１目２目１５目３５０目、切って捧げよう。―にも切って捧げよう。きびしい―のところにも、あの世に行くときのハンカチになる。ヨンホン（靈魂）にも１目２目１５目３５０目、切って捧げよう。昔の先生たちにも１目２目１５目３５０目、切って捧げよう。チョワンハルマニム（竈婆様）にはエプロンの布（ヘンジュチマ）にしよう。汗をかくから汗を拭くてぬぐい（スゴン）として、チョワンハルマニムにも１目２目１５目３５０目と切って捧げよう。アイゴー、アイゴー、クモの紐ができるように、湧水が湧いてくるように―を捧げよう。５０目に足りないよ（両手に布を巻きつけるのをソミが手伝う）。

・梁シンバンと徐シンバンとソミたちの会話（梁シンバンの“葬式の時の泣き方についての話”）

徐：サムチョン、技術いいね、平凡な技じゃないね。

梁：（布で両腕を縛ってしまい、座って）、アイゴ、アイゴー。

徐：ここではお金は出ませんよ。外に行けばたくさんあるでしょう。

梁：アイゴー、どこに行けばいいんだろう。

徐：（大声で）―という人もいない。

梁：アイゴー、女の人の中で声がでかい人はどういう人かわかる？（誰かが「わかりません」という）アイゴー。

ソミ：旦那が亡くなったらそのように泣くのかしら？

梁：ちがうよ。老夫婦2人で住んでいておじいさんが亡くなるとおばあさんは大きく泣けなくて、「オイ、オイ、オイ、オイ、アイゴー、アイゴー」（小さな声で泣き真似をする）と泣くんだよ。また、おばあさんが先に亡くなったらおじいさんはどう泣くのかわかる。これも大きい声で泣けなくて、「フィン、フィン、フィン、死んじやったの」と泣くの。30代、40代の女の人で娘が1人いて、亭主が浮気ばかりしていて、賭け事もして、酒飲み。「このやろう、どっかから金もってこい」と女房にいうような亭主。そんな亭主が亡くなると、女房はどう泣くのかわかる。「アイゴー、この野郎、アイゴー、よく死んでくれた、ポクポクー」、—していない人は障子を閉めて「アイゴー、アイゴー」⁶²。男と女が結婚して3年、すごく仲が良かった。その旦那が交通事故で亡くなったら奥さんはどういう風に泣くのかわかる。「私も連れてって、私も連れてって、あなたが使っていたこの枕は誰が使うの、あなたが使っていたお布団は誰が使うの」って言って、入棺の時も「私も連れてって、私も—」なんて泣くけど、それは嘘よ。

徐：サムチョン、奥さんが亡くなるとトイレで笑うでしょ。亡くなった人の反応を見ると、男の人の方がいい人が多いんだよ。でも女の人はそうじゃないんだって。

梁：「アイゴー、アイゴー、財産でも残して死ねばよかったんだ」。泣くのも、泣き真似をするよな。他のところに嫁に行ってもちゃんと生きていけるから。

徐：それなりに新しいところに嫁に行って、まわりで何かいわれればそれなりの言い訳が…。

・インジョンを集める（徐シンバンは、そろそろインジョンを集めて《ボセカムサン》を終わることを梁シンバンに勧め、梁シンバンは周囲からインジョンを集める）。

徐：今朝、＜クァンセウ＞をするため私たち6時半に起きたんですよ。サムチョンは外に出てインジョンを貰いなさい。そうすれば神様たちも喜ぶでしょう。

梁：本主、まずここに来なさい（鄭氏がお金の入った封筒を出す）。

徐：本主はしっかりしてるね。

梁：封筒ごとくれるの。

徐：本主はしっかりしてるよ。封筒だって5千ウォン札入っている封筒もあれば、1万ウォン札入っているものもある。

梁：それは違うよ。今日から—もらうから。サムシワンに罪を許してもらうのに、役価をはらわなければいけない。サムシワンに5千ウォン札3枚、（そばに座っている朴所長、文理事からももらう）1万ウォン1枚。ありがとうございます。記者のみなさん、こっちに来てください。

徐：ソウルから来た鄭公鐵のお姉さんから（鄭公鐵氏の姉「弟を宜しく願います」といっ

てお礼を出す)。

朴：先生たち、みんなインジョンしなさい（周囲の研究者たちが次々とインジョンを出しにやって来る）。

徐：KBS、カメラマンも出しなさい（KBSのスタッフとカメラマンもやってきてインジョンを渡す。筆者もインジョンを渡す）。

梁：日本のお金（筆者の出した札をみんなにみせる）。

徐：サムチョン、これから私が経理をするから。ヨンミヤ—を持ってきなさい。

梁：1万ウォンをサムシワンだから3つ、3万はもってこなくちゃ。

徐：とりあえず2万ウォン、カード決済でもいい。

梁：もしできたら月賦にしなさい。

徐：12か月払いにしようか、サムチョン、それをすぐ私に預けて。

梁：君にはあげないよ。

徐：計算間違えたらだめだからそういつてるのよ。（ソミにお金を渡す）。

・神々に酒を勧め、占いをして神意伝達

梁：インジョン、役価たくさんもらいました。命の杯です。福の盃です。命を長くしてください。アンシワン、父母先祖、長く生きて極楽に行けるように、サムシワン、どうか、52歳の（ソミがお酒を廻りに降りかける）盃をみんなもらってください。（太鼓の音がして、神名が列挙される）。プルトハルマン、盃を貰ってください。また、ヨンヒヤンタンジュ、サムシワンも盃を貰ってください。（以下、神名を早口でいうので不明。片手でサンバン占い、シンカル占いをする）本主、ここにきて見てください（鄭氏がそばに来て座り占いの結果を見る）。アイゴ—、ありがとうございました。台所で卵を10個ほど茹でてください⁶³。（最後に両手の布を解き、周りの人に礼をして終わる）

このようにして、梁シンバンは周囲の人々からインジョンを貰い、神々に盃を捧げ、占いで神々の神意を聞く。神々が納得したのであろう、よい結果が出て《ボセカムサン》は終わる。

4. 《ボセカムサン》の内容とシンバンの語りの考察

ここでは、《ボセカムサン》の内容とシンバンの語りについて若干の考察を述べる。シンバンの語りについては他の資料との比較検討も行いたい。他の資料とは、『金允洙夫妻のシングッ報告書』及び『文（徐）順実氏のシングッ報告書』に記されている《ボセカムサン》のシンバンの語りであり、前者は梁昌宝シンバン、後者は李春中シンバンが担当した。

（1）《ボセカムサン》の内容

まず、《ボセカムサン》の内容とテーマについて簡潔にまとめたい。シングッ第1日目の《チ

ヨガムジェ」と2日目の《チョシンマジ》で既に神を招いたので、3日目の朝は神々の起床の世話をする《クァンセウ》から始まる。クツでは神の世界も人間の世界と同じように表現されるからであり、神々の起床のあと《ボセカムサン》が始まる。《ボセカムサン》の祭次の目的はやってきた神々に供物（木綿を主に餅・酒・香）を捧げることである。しかし、ただ供物を捧げて「召し上がってください」と述べるのではなく、その準備の仕方に不備があって、それは誰の責任なのかという責任追及の問答劇が行われるがこの祭次の特徴である。

この祭次の構成は大きく分けて、①はじめの語り、②<ジェップグチェマジグツ>、③<チュモクジェサン>、④<トンジマウルグツ>からなる。①は、神々のご機嫌伺いから始まり、本主と祭場を紹介し、このクツをやる理由を述べ、首シンバンの徐順実氏を紹介して、最後に再び神々を招いている。この部分は祭次が開始されるときに行われる定型的な導入部分である。②はシンバンたちの始祖となった僧侶と良家の娘との間に生まれた3兄弟の物語である。この巫祖神話はこれまでも《チョガムジェ》や《チョシンマジ》で語られてきたし、これからも語られる神話である。シンバンたちの巫祖である3兄弟の物語が何度も語られることによって、シンバンたちはシンバンとしての自らの運命を確認するのであろう。3兄弟の物語が終わると再び神々を招き、首シンバンである徐氏の紹介をして、昔の先生（亡くなったシンバン）たちに協力を願い、本主である鄭氏の家族から五等親戚までを招き、みんなで心と力を合わせてクツをしていると述べる。しかし、③では神々を招いたときに問題が起こったようで、まずポンドカムサン（ポンドチナンカムサン）を投獄した。ここからクツを準備するに際して過ちを犯した犯人の究明が梁シンバンと首シンバンである徐シンバンの間で行われる。その結果、さまざまな人物がさまざまな罪状で投獄される。例えば、クツを真心こめてやらなかったとして鄭公鐵シンバンがクツの日取りがちゃんとできなかったとして伝統文化研究所の所長と理事長が、クツの準備がちゃんとできなかったとしてソミが、餅の作り方がわるいといってチョワンハルマンやシルハルマン（架空のハルマンである）などが投獄されるのである。そして最後に、供物（餅）を捧げ、占いをして神が満足した（少し不安があるようだが）という結果で終わる。朝の《クァンセウ》でもそうであったが、神の世界と人間の世界、神話と現実が境目なく語られるのである。④では、シンバンは木綿布を供物として捧げようとして、両手で布を計りながら両手首を縛ってしまう。布が解けないのは神が本主の真心に満足していないからということを見せた後に、本主以下周りの人々からインジョンを集めて神に捧げる。次に梁シンバンは神々に酒を勧め、最後に本主の誠意に神が満足してくれたのかどうかを占い、神が満足しているという結果が出て終わる。これで餅と酒だけではなく布の献上も無事終わり、神々はその供物を満足して受け取ったことになる。このように、《ボセカムサン》は責任追求の劇の形をとっているが、この祭次の本当のテーマは真心を込めて供物を神に捧げることが大切だという教訓である。

次に《ボセカムサン》に登場する話題について他の資料と若干の比較検討をしてみたい。③は罪目罪状という意味のタイトルであるが、餅の話題、酒の話題、魚や肉の話題があがる。しかし、これらの話は単なる雑談ではない。実は、『金允洙夫妻のシングツ報告書』及び『文（徐）順実

氏のシングッ報告書』の《ボセカムサン》にもこのような話題が記されている（済州伝統文化研究所 2010:11、済州伝統文化研究所 2001:182-185）。このような話題は、供物として餅や酒、魚を捧げることを意味していると考えられる。もう一つの重要な供物は布である。④では手にした布の布目を数えることによってそれぞれの神々に布を献上しているのである。神に捧げる最も大切な供物は餅・酒・魚、そして布なのである。また、梁シンバンと徐シンバンの会話は、クツの日取りをきちんと選ぶこと、ソミの心構え、太鼓の叩き方などシンバンやソミたちへの教訓を含んでいる。これらの話も前述の両報告書に記されている（済州伝統文化研究所 2010:116-118、済州伝統文化研究所 2001:178-179、182-185）。このような話題が語られるのは、前述したカシングッの場がシンバンたちのクツの研鑽と伝承の場だからである。

（2）シンバンの語りの考察

《ボセカムサン》では梁シンバンは自分のアドリブ能力や話芸を披露しながら祭次を進める。周りの人々（主に首シンバン）が協力するのだが、梁シンバンの語りには以下の特徴がみられる。

まず、神への語りに使用される定型的な言い回しである。たとえば、「お金というのはその日はなくてもまわりまわってくるものです～人の命より大事なものがありますか」「八字の峻しい一氏」などであり、これらはクツ一般にみられる定型的な言い回しである。

また、定型的な言い回しと対照的なのが梁シンバンのアドリブである。梁シンバンは徐シンバンや女性ソミたちの対応（女3人がやかましい、徐シンバンが大声、徐シンバンが一人で餅を食べている）を上手にとらえて話を進めていく。そして、梁シンバンと徐シンバンとの会話は息が合っている。しかも、2人の会話は単なる雑談ではない。餅や酒の作り方と食べ方、ソミの役割、太鼓の叩き方などの話題は、両シンバンの会話が単なる雑談やアドリブではなく、《ボセカムサン》のテーマに沿って行われているのである。どこまでシナリオがあってどこからが即興なのかはよくわからないが、クツの現場の状況を上手にとらえながら、祭次のテーマに沿って、神の世界と人間の世界、神話と現実を境目なく語る能力がシンバンの語りの能力なのである。

しかし、《ボセカムサン》のテーマに沿っているのかどうか分からない話題もある。葬式で残されたものが泣く話である。この話を梁シンバンは延々と話す。徐シンバンが主に相手をしているが、彼女は適当なところで話を切り上げさせている。実は『金允洙夫妻のシングッ報告書』でも梁シンバンは同じような話をしている⁶⁴。さらに、このときのシングッでは梁シンバンは金ピョンシンバンの物真似をして周りのものを笑わせている（済州伝統文化研究所 2010:124）。今回も徳山シンバンの物真似をしているが、葬式の話と他のシンバンの物真似は梁シンバンの持ち芸と考えていいであろう。

つまり、一見アドリブのように見えるシンバンの語りも実は話題と内容がほぼ決まっていて、そこに自分の持ち芸を加えて話を進めているのがわかる。シンバンとは単なる神に仕える人ではなく、クツの現場におけるエンターティナーなのである。なお、エンターティナーとしてのシンバンの芸は話芸だけではない。布を巻きつける技も忘れてはならない。《ボセカムサン》に演劇

的な要素があるといわれる理由の1つは、シンバンの持つこのようなエンターティナー性が遺憾無く発揮されているからである。では、なぜ《POSECAMSAN》がこのような形で行われるのかについては、シングッ全体を通して、“クッと演劇性”というテーマで考察したい。今後の課題である。

(付記)

残念ながら鄭公鐵氏は2013年に亡くなられた。哀悼の意を表すとともに、本稿を鄭公鐵氏の霊に捧げる。

主な参考文献

(日本語)

- ・ 玄容駿 1985『済州島巫俗の研究』第一書房
- ・ 古谷野洋子 2012a「済州島のシングッ（成巫儀礼）-約30年間におけるその変容-」『比較民俗研究』27号
- 2012b「調査報告：済州島のシングッ（成巫儀礼）-2011年のシングッから-」『済州島研究』4号
- 2013「済州島シングッ報告：チョガムジェにおけるシンバンの語り-2011年、城邑里の鄭公鐵シンバンのシングッより-」『済州島研究』5号
- ・ 張籌根 1973『韓国の民間信仰 資料編』金花舎
- ・ 野村伸一 1987『韓国の民俗戯 あそびと巫の世界へ』平凡社
- 1999「済州島のクッの芸能性」（『仮面と巫俗の研究』収録）第一書房

(韓国語) *発行年順

- ・ 済州伝統文化研究所編集（文武秉等）・発行 2010（再版）『済州クングッ 1986年新村里金允洙家のシングッ』（『제주큰굿 1986년 신촌리 김윤수 심방집의 신굿』）
- ・ 済州伝統文化研究所編集・発行 2001『済州島クングッ資料 1994年東金寧文順實宅中タンクルクッ』（『제주도 큰굿자료 1994년 동김년 문순실덕 중당클굿』）
- ・ 済州伝統文化研究所編（文武秉・文봉순執筆）2011『済州クングッ報告書』（『제주큰굿보고서』）
KBS 済州放送総局

(ネット資料)

<http://www.flet.keio.ac.jp/~shnomura/shinku>

注

- ¹ 野村伸一は金允洙シンバンのクッの記録からシングッに関する様々な論考（『韓国の民俗戯 あそびと巫の世界へ』『済州島のクッの芸能性』他 <http://www.flet.keio.ac.jp/>）

shnomura/shinku) を発表している。

- ² 済州大学校耽羅文化研究所ではシンバンたちの語るポンプリを記録する作業を始めている。
- ³ 「シングッ保存会」はこのシングッを契機として誕生した保存会であり、徐順実シンバンが代表である。
- ⁴ クッの中で行われるまとまった祭儀を済州島の報告書では祭次と記すので本稿でもそれに従う。
- ⁵ タンクルとは祭場の四方の壁に棚を吊って神々の座す場としたものである。
- ⁶ 昨日の酒の二日酔いの為のお酒、酔い覚ましの酒のこと。
- ⁷ 漢拏山（ハルラサン）という名前の焼酎。
- ⁸ チョンジェ、コクジェ、キウジェ（祈雨祭）、村のポジェは城邑里で行われる堂祭のことであろう。
- ⁹ 玄によるとノリとは劇的要素で構成されている儀礼形式であるという（玄 1985:292）。
- ¹⁰ クッにおける演劇的な要素に関しては野村の論考（「済州島のクッの芸能性」他）がある。
- ¹¹ 神の子（シニソンバン）とはシンバンのこと。
- ¹² サムサゲとは3つ4つのこと、四季の数ヶ月のことか。
- ¹³ クングッは14日間なので19日では計算が合わない。
- ¹⁴ シンバンの家の守護神及びその守護神を祀る祭壇をタンジュという。
- ¹⁵ 成巫儀礼のサムシワンマジで本主が形式的に食べるもの。
- ¹⁶ サムシワンとは巫祖神のこと、役価とはシンバンの神に捧げる供物のことである。
- ¹⁷ これらの門は神々のやってくる門である。
- ¹⁸ ニョニヤンタンジュとは本主の家の巫祖神の祭場のことである。
- ¹⁹ キメを部屋に飾っての意味か。キメとは韓紙を切って作った切紙であり、部屋の周囲に張り巡らされる。
- ²⁰ 玉皇上帝、巫祖三兄弟を祀る場所のこと。祭場の四方の壁に吊った棚の一つ。
- ²¹ 本郷堂とは各村の神を祀る堂のこと。
- ²² 神々の位の順番は、チョナンカムサン（天皇監床官）、チワンカムサン（地皇監床官）、インカムサン（人皇監床官）、ボンドカムサンの順である（済州伝統文化研究所 2001:178）。
- ²³ ボンドカムサンとボンドチナンカムサンとは同じと考えられる。なお、ボンドチナンカムサンはボンドチワンカムサンとも聞こえるがここではボンドチナンカムサンに統一した。
- ²⁴ ウロンクンの監獄については不明。
- ²⁵ ポシメとは証拠の事か。
- ²⁶ 目撃者あるいは証拠が必要だという意味か。
- ²⁷ 意味不明。
- ²⁸ 済州島でサムチョンとは親しい人に対する呼びかけ。

- ²⁹ インジョンとは人情と書くがお金（お布施のようなもの）の事である。
- ³⁰ メンジン国のハルマニムはブルトハルマン（お産と子育ての神）、ムンジョンは門神、ポニャン（本郷）は各村の堂の神である。
- ³¹ ヤンソセの村については不明。
- ³² この前に「昔、男が浮気をして田舎の女の子に赤ん坊ができて」という話が入るが、短くて内容も不明であるため省略した。罪目という言葉に繋がるのであろう。
- ³³ 当時、伝統文化研究所の所長は朴キョンフン氏（漢字名がわからない）、理事長は文武秉氏である。
- ³⁴ モンドギは人を叩く棒のこと。
- ³⁵ 本主とはクツを頼む人の意味もあるので、K B S、文博士、朴所長、姜プロデューサー）も入るのであろう。しかし、首シンバンである徐順実シンバンも果たして含まれるのかどうかかわからない。
- ³⁶ 釜山や済州島では台所をチョンジという。
- ³⁷ コッパンハルマンの意味が分からない。供物や食事の担当者のことか。
- ³⁸ 餅を作る機械の音を真似ているのか。
- ³⁹ 吹き出してしまふ、溢れてしまふの意味であらう。
- ⁴⁰ トルレットック（餅の1種）を作ってモンサンを貰うの意味か。モンサンの意味は不明。
- ⁴¹ ピョンハルモニ、シルハルモニ、トクハルモニはそれぞれの餅の作り手のことであらう。
- ⁴² この質問の意味は不明。
- ⁴³ ウロックはホシハタ、クロソイのこと、ブルボルラックは目が大きいメバル、チョギはイシモチのこと。
- ⁴⁴ ジンロ焼酎とは韓国の焼酎。朴所長が気がきかないという意味なのか。
- ⁴⁵ オメギスルは粟で作った酒で城邑里の特産品、城邑里にはオメギスルを作る人間文化財の女性がいる。
- ⁴⁶ 具体的に誰を監獄に入れたのかかわからないが、昔通りにやってくださいといった朴所長であらうか。
- ⁴⁷ ヨンミ氏は高福子シンバン（上道里のシンバン）の娘でこのクングッでは小巫を務めた。
- ⁴⁸ チョプシンバンの意味がわからない。
- ⁴⁹ この前にチョップシンバンの話があるが内容がわからない。
- ⁵⁰ 意味不明。
- ⁵¹ シンソミとはソミの事か。
- ⁵² 肩も上げないでいい加減に叩くという意味。
- ⁵³ 実際にこのシングッを担当したシンバンの中で首シンバンになった徐シンバンが一番年下である。
- ⁵⁴ この文章ではチョプシンバンとはクンシンバン（首シンバン）以外のシンバンの事をさし

ているようだ。

⁵⁵ 意味不明。

⁵⁶ クッの始まりの定型的な言葉。

⁵⁷ 徳山氏は日本在住のシンバンである。

⁵⁸ クァンデとは韓国の伝統的な放浪芸人のこと。

⁵⁹ コリドンバンとは供物の一つで、真鍮の器に丸い餅を盛ってその中央に葉を刺し切り紙で覆ったもの。

⁶⁰ 意味不明。

⁶¹ トルマギは外套、パジはズボン、チョゴリは上衣、チマチョゴリは女性の上衣である。

⁶² 意味不明。

⁶³ 占いの結果のお礼として茹で卵をつくってくるように言ったのか。

⁶⁴ 金允洙夫妻のシングッでも《ポセカムサン》を担当した梁シンバンは次のような話をした。「おばあさんが急に亡くなるとおじいさんは「アイゴー、アイゴー」、おじいさんが亡くなるとおばあさんは「アイゴー、ハイバン（ハラバン）」、それが泣くわけではなく（こんなふうにと弱々しい泣き真似をしている）。亭主は35才くらいで、女房は30才くらいで、亭主が賭け事してお金を持ってくるときは、女房に「これで肉買ってきて、－買ってきて、飯を喰おう」、負けてくると、「この野郎、金をどっかからもってこい」。それでその亭主が酒ばかり飲んで肝臓が悪くなって亡くなってしまいました。それで女房は、「アイゴー、ペクチョンめ、よく死んでくれた、こいつ（悪口が続く）、餅を一人で持って行って（餅くらいは上げるからという意味か?）、それを持ってお粥でも作ってあんたのお父さんのチェサのテーブルに置きなさい、スジョルを守って再婚したりしないで生きていくから、あんたはあの世にいきなさい」（済州伝統文化研究所 2010:124）。